

特 集

在宅人工呼吸の問題点

《巻頭言》

大阪大学医学部附属病院 集中治療部 内山昭則

人工呼吸療法は、歴史的には病院内の集中治療室における重症患者の治療法として発達してきました。しかし、呼吸不全の患者は多く、人工呼吸器の発達やインターフェイスの進歩によって、人工呼吸療法は病院から在宅治療へと大きく広がってきております。

本会では2017年3月に『小児在宅人工呼吸療法マニュアル』を出版しましたが、これまであまりなかった分野のマニュアルということで非常に大きな注目を集めております。これにあわせて、在宅人工呼吸の諸問題についての特集を企画しました。

在宅人工呼吸を適切に行っていくにはさまざまな課題があります。本特集では、臨床工学の面から機器の仕組みや危機管理上の注意点、在宅患者の看護の課題、疾患別の適応と問題点などについて、それぞれの分野でご活躍の先生方にご執筆をお願いしました。また、好評を得ている『小児在宅人工呼吸療法マニュアル』の作成の経緯についてもあわせてご紹介します。

本稿の著者には規定されたCOIはない。